

SSKU

CIL ひの通信

No.63

編集：特定非営利活動法人 自立生活センター日野

〒191-0031 東京都日野市高幡 2-9 ウィステリアガーデン 1F

e-mail cilhino@view.ocn.ne.jp

TEL：042-594-7401

発行所：障害者団体定期刊行物協会 (定価百円)

FAX：042-594-7402

しょうがいしゃ さべつ ひのし つく かい がくしゅうかい かいさい
障害者差別のない日野市を作る会 学習会開催



ねん がつついたち か にほんほんかい
2022年11月1日(火)、DPI日本会
ぎ おのうえこうじ まね がつ おこな
議の尾上浩二さんをお招きして、8月に行
しょうがいしゃ けんりじょうやく こくれんしんさ
われた障害者の権利条約の国連審査か
み にほんせいふ しせい そうかつしよ
ら見えてきた日本政府の姿勢や、総括所
けんご とく かだい はな
見後に取り組むべき課題についてお話し
こんかい きんきゅうそ
いただきました。今回のポイントは、緊急措
ち かだい あ だい
置をとるべき課題として挙げられた、第19
じょう じりつ せいかつ ち いきしゃかい
条「自立した生活および地域社会へのイ
だい じょう きょういく
ンクルージョン」と、第24条「教育・インク
きょういく かんこく ひの
ループ教育」についての勧告です。日野
し しょうがい かた せいかつ おおがた にゅう
市には障害のある方が生活する大型の入
しよしせつ ふくすう しせつ なん
所施設が複数あり、これまでも施設から何
にん しょうがい かた ち いき じりつ
人も障害のある方たちが地域への自立
じつげん ひとり じりつ
を実現してきましたが、1人自立したらすぐ

つぎ かた にゅうしよ しょうじき にゅうしよ ひか
に次の方が入所されます。正直、入所を控
かた あと た だつしせつ ぎやっこう
えている方が後を絶たず、脱施設とは逆行
してしています。これはなぜでしょうか。また、学
こうきょういく さくねんど し せさく
校教育において、昨年度より市の施策とし
ふくしきょういく
て福祉教育ハートフルプロジェクトがスタ
ことし こう れんけい すす
ートし、今年モデル校と連携して進める
せんせいがた とも せつきよくてき とく
など、先生方と共に積極的に取り組んでき
げんざい しょうがいとうじしゃ こうし
ました。現在は障害当事者たちが講師とな
みづか しょうがい けいけん はな がいぶ
り、自らの障害や経験を話すなど、外部と
きょうどうがくしゅう ちゅうしん きょういく
の共同学習を中心にインクループ教育
む こども せんせいがた いしき へん
に向けて、子供たちや先生方の意識の変
かく う い かんきょう つく いち
革、そして受け入れる環境を作るために一
だんいちだんつ あ こんかい ていねい かい
段一段積み上げています。今回、丁寧に解
せつ せつ あらた だつしせつ
説していただいて、改めて脱施設やインク

ルーシブ教育^{きょういく}について考える^{かんが}機会^{きかい}となりま
したし、幼^{おきな}き頃^{ころ}からの教育^{きょういく}がいか^{ひと}に人^{しや}や社
会^{かい}を作^{つく}っていくために大切^{たいせつ}なもの^しなのか知
ることができました。私^{わたし}たちは市^しのレベ
ルでもこの総括^{そうかつしよけん}所見^いを活^とかした取^{とく}り組^くみを
進^{すす}めるために、関係^{かんけい}機^き関^{かん}や関係^{かんけい}者^{しや}と協^{きょうりよく}力^{りよく}
していかなければならぬと強^{つよ}く感^{かん}じてい
ます。我^わが街^{まち}、日^ひ野^の市^しにおい^{ひのし}ても日^ひ野^の市^し障
害^{がい}者^{しや}差^さ別^{べつ}解^{かい}消^{しょう}推^{たい}進^{しん}条^{じょう}例^{れい}施^し行^{こう}から3年^{ねん}を
迎^{むか}え、改^{かい}正^{せい}の時^じ期^きに
な^なります。ご講^{こう}演^{えん}の際^{さい}に
尾^{おのうえ}上^{しやうかい}さんか
らもご紹^{しょう}介^{かい}いた
だきま
した
が、
日^ひ野^の市^しの条^{じょう}例^{れい}は①不^ふ当^{とう}な差^さ別^{べつ}的^{てき}取^{とく}り扱^{あつか}
い^{ていぎ}の定^{ちやく}義^{せつ}におい^{さべつ}て、直^{ちやく}接^{せつ}差^さ別^{べつ}だ
けでな
く、
間^{かん}接^{せつ}差^さ別^{べつ}、関^{かん}連^{れん}差^さ別^{べつ}を定^{てい}義^ぎして
いるこ
と。
②基^き本^{ほん}理^り念^{ねん}で
は障^{しょう}害^{がい}女^{にょ}性^{せい}に
対^{たい}する複^{ふく}合^{ごう}
差^さ別^{べつ}を明^{めい}記^きして、適^{てき}切^{せつ}な配^{はい}慮^{りょ}を
受^うけるこ

と定^{てい}義^ぎしているこ
と。③不^ふ当^{とう}な差^さ別^{べつ}的^{てき}取^{とく}扱^{あつか}
い^{きんし}の禁^{しやう}止^{がい}では、障^{しょう}害^{がい}者^{しや}本^{ほん}人^{にん}へ
の差^さ別^{べつ}だけ
でな
く、家^か族^{ぞく}へ
の差^さ別^{べつ}も禁^{きん}止^しした
関^{かん}係^{けい}者^{しや}
差^さ別^{べつ}につ
いて定^{てい}義^ぎして
いるこ
と。改^{あら}め
て皆^{みな}
で作^{つく}った日^ひ野^の市^しの条^{じょう}例^{れい}は、国^{くに}よ
りも先^{さき}に総
括^{そう}所^{しやう}見^{けん}を
実^{じつ}施^しして
きてい
るんだ
とい
うこ
と
を誇^{ほこ}りに、そ
して
驕^{おご}ら
ず、こ
れか
らも
しっ
かり
と運^{うん}用^{よう}し、使^{つか}い
こ
な
しな
が
ら、足^たり
な
い部
分^{ぶぶん}
はよ
り一^{いっ}層^{そう}磨^{みが}き
上^あげ
てい
き
たい
と
思
い
ま
す。
最^{さい}後^ごに尾^{おのうえ}上^{しやうかい}さん
の言^{こと}葉^ばで“分^{ぶん}離^りに慣^なれた
社^{しや}会^{かい}“と紹^{しょう}介^{かい}さ
れ、確^{たし}か
に
と
思
っ
て
し
ま
う
自
分^{じぶん}
が
い
ま
し
た。
分^{ぶん}離^りは
差^さ別^{べつ}で
あ
る
と
い
う
こ
と
を
忘^{わす}れ
ず、個^こ々^この
人^{じん}権^{けん}に
対^{たい}する
意^い識^{しき}を
高^{たか}
め
て
い
か
な
け
ば
な
ら
ぬ
と
再^{さい}認^{にん}識^{しき}し
た
がく
しゅう
かい
で
し
た。
皆^{みな}様^{さま}、ご
参^{さん}加^かあ
り
が
と
う
ご
ざ
い
ま
し
た。
記^き:藤^{ふじ}田^た

とうきょう と しょうがいしや けんしゅう しゅうりょう
東京都障害者ピアサポート研修を修了しました

令和4年度に行われた東京都障害者ピアサポート研修の基礎研修、専門研修、フォローアップ研修全ての受講を無事修了しました。この研修の目的は、自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしなが
ら、他の障害や疾病のある障害者の支援を行うピアサポーター 及び障害福祉サ
ービス事業所等の管理者等の養成を図ることにより、東京都内の障害福祉サー

等における質の高いピアサポート活動の取組を支援することです。ピアサポートとは、「自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしなが
ら、他の障害や疾病のある障害者の支援を行うこと」を言います。令和3年度報酬改定において、「ピアサポ
ー体制加算・ピアサポート実施加算」が新設され、事業所において、都が実施する「障害者ピアサポート研修事業」の研修力

リキュラムを受講・修了した障害者及び障害者であったと認められる者(障害者等)及びそれ以外の職員(管理者等)を配置(就労継続支援B型については配置し、支援を実施)することにより、加算として評価されることになりました。自立生活センター一日野は『日野市障害者支援センターぴあ・たかはた』として、サービス等利用計画などを作成する一般相談支援の事業所として活動していますので、加算の対象事業所となります。ピアサポート活動に加算が付き、その有効性がようやく国にも認めら

れることとなりましたが、自立生活センターでは設立以来ピアカウンセリングや自立生活プログラムを実施し、ピアとして仲間同士サポートしあう関係を作ってきました。この研修には東京都障害者ピアサポート研修検討委員会の委員としても関わってきました。基礎と専門研修では講師も務めさせていただきました。加算の有無に関係なく、これまでと同じように障害者としての経験を活かしながら、相談支援の現場に役立てていきたいと思っております。 記:秋山

ふくしきょういく さんか 福祉教育ハートフルプロジェクトに参加して

2023年3月4日(土)にコロナ禍によって延期されていた、福祉教育ハートフルプロジェクト特別講演会「みんなが幸せに生きるまち～日野からはじまる共生社会の“ひのベーション”～」が1年という長い期間を空けて開催されました。私も登壇者の一人として身体障害者の立場から、自分の子どもたちとの生活や彼らの成長を感じる場面に小さな幸せを感じていること、そして障害ゆえにおもいきり楽しめない歯がゆさもあることなど、日々の想いを共有させていただきました。また、障害者に対する差別については、障害者差別解消推進条例を策定した経緯や差

別が生まれる仕組み、考え方などご紹介して、参加者のみなさんに考えていただく機会とさせていただきました。当日の会場には約50人の参加者と、オンラインでも約10名の方が参加してくださり、たくさんの質問と感想をいただいたこともさることながら、久しぶりの対面集合型の開催で直接やり取りできたことに、私たちも充実した時間を過ごすことができました。この福祉教育ハートフルプロジェクトは、令和2年4月にスタートした日野市障害者差別解消推進条例における障害者差別解消に向けた様々な取り組みのひとつとして始まりました。法律や制度が整備

されると同時に、市民一人ひとりが障害者差別解消に向けて行動する必要があるとして、多様な人々が共に学ぶ機会と場を作り、「気づき」「意識変化」「行動」を促して、誰もが心地よく安心して暮らせる社会を目指して始めました。当時は仮称「福祉教育冊子プロジェクト」という名前で、冊子を作り無意識の偏見を減らすということが目的でしたが、近隣自治体が作成した参考冊子はどれもすばらしく、メンバーで検討した結果、他にも同じようなものを作る必要はないとして、名前も新たに福祉教育ハートフルプロジェクトとし、子どもたちと地域が共に知り、考え、行動する場を作っていくものにできないかとほうしん てんかん さくねんど しょうがくせい ひとり せいび かつ よう しょうがい さべつ へんけん ひと ちが こせい など、子どもたちや取り扱う先生たちも取り組みやすい生きた教材を「ハートフルブック」として作成し、授業に取り組んでいます。併せて、令和4年度はパートナー校として、日野市立第5小学校が年間を通して障害当事者をはじめとする様々な方からお話を伺ったりすることで、“多様性”について考えるきっかけ作りを行っています。私もその一人として、5小に伺い話をさせてもらいましたが、複数の当事者とやり取りする機会は、子どもたちの考えを深め、学びにつながってい

ることを彼らの質問内容から実感することができました。新しいことを知るということは大人になってもワクワクするものです。特別講演会に LGBTQ の当事者である斎藤氏が登壇し、お話しくださいましたが、男性、女性というのは私たちが小さいころから教えられてきた性別の種類であり、考え方ですけれども、実際は 10人に1人は性的マイノリティがあり、男性と女性だけでは表現できないことを改めて考えさせられた時間でした。わかっているような気がしても、実際は知らないことばかりですし、どれだけ先入観に縛られ、関心を持って考えていなかったのか反省するばかりです。しかし、子どもたちは大人に比べて先入観も偏見も少なく、5小の子どもたちの発表を見ていても明らかで、純粋に受け止めた先に、「同性婚ができるように市長にお願いします!」という発言に、自分が小学生の時はそんな発想も生まれなかったなとうらやましさを感しました。この福祉教育ハートフルプロジェクトは来年度もパートナー校を増やし継続していきます。これからの未来を担う小学生の「普通」が多様な捉え方になっていくことを望みますし、障害者と健常者ではなく、それぞれの個性や違い、自分色を認め合える教材としてプロジェクトが発展していくことができれば本当にうれしいです。

記：藤田

ねんど ひ の しんたいしょうがいしゃふくしきょうかい あき こうえんかい ほうこく
2022年度日野市身体障害者福祉協会 秋の講演会 報告



2022年11月20日(日)日野市身体障害者福祉協会主催の秋の講演会、「車いす生活と私」というテーマにて、視覚障害者の方々に CIL日野当事者職員、藤田とおおかわ大川が講師として講演をしました。開催場所は JR豊田駅北口から徒歩1分にある日野市勤労青年会館にて開催されました。前半はおおかわ大川が「車いすです生活するということとは…」という内容を話しました。車いすを使用しながらの生活で、不便な部分というのはたくさんあります。一つ例をあげるならば、生活をする中で一番過ごしているのは自宅だと思います。私大川は介助者の手を借りて自立生活をしています。もちろん車いすですそのまま入れるように家屋改造

をしています。自立生活をする際、住む家を探すため不動産屋に行ったのですが、対応をしてくれる所はまだありません。車いすを見ただけで「物件は無い」と言われ門前払いされる事も多々ありました。対応をしてくれる所では色々な物件を紹介してくれます。ですが自分の条件に合う物件を見つけても、大家さんから家屋改造の許可をもらえなかったり、そもそもバリアフリー物件じゃないから車いすNGという答えて、住む家を探す事がとても大変でした。やっと見つけた 2DK のアパートには車いすです生活できるように、いろいろな工夫を施した家屋改造をしました。玄関には高い段差があったので段差昇降機を取り付け、畳の部

屋はフローリングに変え、お風呂はシャワーチェアが入るように箆子で底上げしました。他にも車いすに乗り移りできるように室内リフトの設置もしました。家屋改造やちょっとした工夫をする事で車いすを使用しながらの自立生活を始める事が出来ました。また自宅だけではなく外出時の不便な所や、どの様に工夫をしているのか、良かったこと、嫌だったこと、差別をされたこと、家族や友人、バリアフリー等、赤裸々に話させていただきました。障害種別は違いますが、気持ちや思いも含め、車いすユーザーの日常生活を伝えることが出来たと思ってい

ます。後半は「ご存じですか？障害者差別解消推進条例」という内容で、藤田が話しました。条例施行から3年目、改正時期を迎える日野市障害者差別解消推進条例ですが、現在の条例についての説明、この3年間で見えてきた改正すべき課題についての話がありました。日野市障害者差別解消推進条例をもっと多くの市民の方々に知っていただければ、障害の有る無しに関係なく、差別や虐待のない生活しやすい日野市にみんなでしていけるのではないかと感じています。 記：大川

ひのししょうがいしゃさべつかいしょうしえんちいききょうぎかいほうこく
日野市障害者差別解消支援地域協議会報告

令和2年4月よりスタートした日野市障害者差別解消推進条例が3年目を迎え、条例改正をするか否かの時期になりました。社会情勢なども踏まえ改正の必要性を検討していくとありますが、前年8月には国連から日本に対して勧告が出され、特に地域移行と教育について強く要請が出されました。日野市の条例はこの2点について明文化していないわけではないのですが、勧告で指摘されたレベルへ引き上げていくために、しっかりと障害者本人やその家族、教育関係の皆さんから現状

についてお聞きして、今あるニーズを分析し、改正に取り組んでいきたいと思えます。これまで条例運用をしてきた中で、差別や合理的配慮に関する相談は16件。条例ができて差別の件数が減ったというわけではなく、やはり、相談をどこにしたらいの？という相談窓口の認知度、あの相談員には…という相談そのもののし難さなどの影響があるのかもしれませんが。事実、昨年10月に実施した市民意識調査における認知度調査では“日野市障害者差別解消推進条例を知っている”が障害当事者

でも28.1%、一般市民に至っては22.8%
で、おそらくコロナ禍の影響もあったのかと
おもいますが、初年度調査よりも低下する事
態になっています。まずは知っていたか
なければ、どんなに高いレベルの条例を作
ったとしても意味がありませんので、周知
の方法を工夫し、これまで以上に発信もし
ながら、聞いたことがある、知っているとい
う人を増やしていければと思います。今回
の条例改正に向けて副市長から評価・検
証も大切だが、改正も含めた議論をするよ
うと日野市行政が積極的に動くという姿
勢も示してくれました。リーダーの強い姿
勢によって、各委員の皆さんからも条例改
正をきっかけに、「これが周知の機会にな
らないか」、「国連の勧告の内容について
も条例に加えるべきではないのか」と、条
例改正を進める方向で動いています。私
自身も、やはり教育分野で言えば、世界的
にインクルーシブ教育を目指す方針の中、
日本は独自の教育方針を緩めることなく、
一見分離とも思われる仕組みが今なお続
いています。しかし、最近少し違った動きも
出てきていますのでご紹介いたします。文
部科学省の有識者会議は障害の有無に
かかわらず共に学ぶ「インクルーシブ教
育」を推進するため、特別支援学校と小
中高等学校のいずれかを一体的に運営

するモデル事業の創設などを求める提
言をまとめ、公表しました。提言は障害
のある児童生徒らが通常の学級で学ぶ
ための支援策を議論する文科省の有識
者会議がとりまとめたものです。提言に
よりますと、特別支援学校と高校、特別
支援学校と小学校、特別支援学校と小
中学校といった組み合わせで同じ敷地
内や近隣に設置して一体的に運営し、校
長や一部教員を兼任させる形を想定し
ています。互いの学校を児童生徒が行
き来し、教員も互いの学校で教えること
で障害の有無に関わらず一緒に学ぶ「イ
ンクルーシブ教育」を進めたい考えです。
文科省では2024年度にもモデル事業
を開始し、いずれは全国に広げていきた
いとしています。(3/13(月) 18:45配
信 YAHOO! JAPAN ニュースより抜
粋)障害特性に合わせた特別支援教育を
推進してきた日本において、これがどれだ
けの効果があるものなのか正直わかりま
せん。新しいことに挑戦する試みは必要で
すが、この形は変化の一步であってイン
クルーシブ教育の最終形と呼ぶのは違うの
ではないかと思います。目指すべきは国連
が示した、分離特別教育を終わらせ、障害
のある子どもがインクルーシブ教育を受け
る権利を認識し、あらゆる教育段階におい
て合理的配慮等の支援が受けられること
を保障することなど、誰もが権利を行使で

きる日本教育でなければならないと思いま
すので、まずは日野市の条例をこのレベル
に近づけられるように努力していきたいと
思います。日野市では一昨年より福祉教
育ハートフルプロジェクトがスタートし、小
学校4年生だけでなく先生方も“多様性を
学ぶ”機会によって、リアルな障害観を知っ
てもらえる時間を作ることができています。
個人的にはインクルーシブ教育を目指す

機運が社会的に高まってきている気がしま
すので、この流れに乗って、日野市の学校
関係者や教育委員会の皆さん等と協力し、
“なぜインクルーシブでならなければならない
のか”や“インクルーシブで学ぶ意義”
等を条例改正の際に明記できればと考え
ています。どうぞ、日野市障害者差別解消
推進条例改正に向けてご意見がある場合
は、CIL日野藤田までご連絡ください。

記：藤田

日野市地域自立支援協議会に出席して

令和4年度第2回日野市地域自立支援
協議会が令和5年2月15日に行われまし
た。主な議題は、令和4年度事業の進捗報
告として、地域自立支援協議会に関するこ
ととして相談支援部会と就労支援部会に
ついて、その他障害者施策に関することと
して、医療的ケア児支援事業について、精
神障害者等支援事業について、障害者差
別解消に向けた取り組みについて、災害
時の避難行動要支援者への対応につい
て、日野市障害者保健福祉ひの6か年プ
ランについてなどが話されました。来年度
は日野市障害者保健福祉ひの6か年プ
ランについて新しく策定されることになり
ま

した。それに向けて今年度はアンケート調
査が行われました。アンケート結果の中で
残念な結果だったのは、日野市障害者差
別解消推進条例の認知度が制定当初よ
り下がってしまったことです。コロナ禍の影
響があったことありますが、広く知られて
いかないことには、せっかくの良い条例も
有効なものとなりません。障害のあるなし
関係なく広くこの条例を知ってもらい、少し
でも差別のなくなる社会になるように活動
に一層力を入れていきたいと思えます。日
野市での様々な障害者の課題解決のため
に、計画策定に少しでも反映されるように
努力していきたいと思っています。

記：秋山

と ひ の し そうごうぼうさいくんれん かいさい
10/22(土)に日野市総合防災訓練が開催されました。

日野市総務部防災安全課より日野市障害者関係団体連絡協議会宛に訓練実施に伴う協力の依頼があり、代表の一人として当職員の藤田が参加しました。要配慮者を対象とした避難所開設訓練として、要配慮者スペースまでの動線確認とスペース内の間仕切り用テントや簡易ベッド、床置きマットなどの確認・体験を行いました。日野市は2019年の台風避難を経験して、少しずつ避難用設備も準備されてきていますが、これから災害時避難行動要支援者の個別避難計画の作成を始めることや、

実際避難するときの支援者をどのように集めるのか、避難所での導線スペースの確保やトイレに行けるのか問題など課題は山積みです。福祉避難所にすべての要配慮者が安心して避難できるわけではないので、地域の一般避難所の質をいかに向上していけるかが今後のカギになります。来年の総合防災訓練では要配慮者も実際に避難訓練に加わることを要望し、地域の防災スキルのレベルを上げていければと思います。
記：藤田



わたしたちのあゆみ
ねん がつ ねん がつ
(2022年10月~2023年3月)

- 【2022年10月】**
- ここのか ぼうさいげんさい
9日 防災減災シンポジウム
 - にち せいしん
11日 精神ピアサポートグループ
 - にち どうきょうととしせいびきよほな あ
13日 東京都都市整備局話し合い
 - にち とししょうがいしゃ けんしゅうけんとう いんかい
14日 都障害者ピアサポート研修検討委員会
 - にち ふくし きょういく ひ
19日 福祉教育ハートフルプロジェクト日野市第五小
 - はつか ひのししょうがいしゃしゅうかんじつこう いんかい
20日 日野市障害者週間実行委員会
 - にち ひのし そうごうぼうさいくねん
22日 日野市総合防災訓練
 - にち にちしょうれん とよだ えきけんがく
24日 日障連 豊田駅見学
 - まちづくり人プロジェクト
 - にち ぜんこくしゅうかい ひびや
25日 10.25全国集会・日比谷デモ
 - にち そうだんし えん
28日 相談支援サポートグループ
 - にち にっしょうれん しぎこんだんかい
29日 日障連市議懇談会※
 - にち ひのし まち すいしんきょうぎかい
31日 日野市UD街づくり推進協議会

- 【2022年11月】**
- ついたち しょうがいしゃ さべつ ひのし つく かい
1日 障害者差別のない日野市を作る会
がくしゅうかい
学習会
 - ふつか ふくし きょういく
2日 福祉教育ハートフルプロジェクト
 - むいか にっしょうれん うんえい いんかい
6日 日障連運営委員会※
 - ようか せいしん しゅうちゅうこうぎ
8日 精神ピアカン集中講座
 - にち しょうがいしゃ けんしゅうじぎょう かかわ
8-9日 障害者ピアサポート研修事業に係る
しどうしゃようせいけんしゅう
指導者養成研修
 - にち そうだんし えんぶかい
10日 相談支援部会
 - にち どうじしゃべんきょうかい
14日 当事者勉強会
 - にち せいしん しゅうちゅうこうぎ
15日 精神ピアカン集中講座

- にち ひのりょうごえんくじょうかいけつ いんかい
16日 日野療護園苦情解決委員会
- にち せいしん しゅうちゅうこうぎ
17日 精神ピアカン集中講座
- はつか しんたいしょうがいしゃきょうかいこうえんかい
20日 身体障害者協会講演会
- にち せいしん しゅうちゅうこうぎ
22日 精神ピアカン集中講座
- にち とししょうがいしゃ けんしゅうけんとう いんかい
28日 都障害者ピアサポート研修検討委員会
- とうきょうととしせいびきよほな あ
東京都都市整備局話し合い
- にち せいしん しゅうちゅうこうぎ
29日 精神ピアカン集中講座
- にち どうきょうとそうだん しえんじゅうぎょうしゃけんとうかい
30日 東京都相談支援従業者検討会

- 【2022年12月】**
- むいか どうきょうとげんにんけんきょうざいさくせい かいぎ
6日 東京都現任研教材作成チーム会議
 - ようか せいしん
8日 精神サポートグループ
 - にち にっしょうれんじんけん
17日 日障連人権イベント※
 - にち ふくし
19日 福祉ハートフルプロジェクト
 - にち ぜんこく
20-23日 JIL全国セミナー
 - にち そうだんし えん
23日 TIL相談支援サポートグループ

- 【2023年1月】**
- にち どうきょうとげんにんけんきょうざいさくせい かいぎ
12日 東京都現任研教材作成チーム会議
そうだんし えんぶかい
相談支援部会
 - にち どうじしゃべんきょうかい
16日 当事者勉強会
 - にち ひのりょうごえんくじょうかいけつ いんかい
18日 日野療護園苦情解決委員会
 - にち がくしゅうかい
19日 TIL学習会
 - にち おおさかかみちゅうがっこうとくべつしえんきょうこうぎ
25日 大阪上中学校特別支援級オンライン講座
ふくしきょういく
福祉教育ハートフルプロジェクト
 - にち ひのしちいきこうきょうこうつうかいぎ
26日 日野市地域公共交通会議
 - にち ひのししょうがいしゃさべつかいしょうしえんちいききょうぎかい
27日 日野市障害者差別解消支援地域協議会
 - にち ひと
30日 まちづくり人プロジェクト

【2023年2月】

- 1日 多摩動物公園駅無人化説明会及び新機
器実証実験
- 2日 ピアサポートフォローアップ研修
- 8日 ピアサポートフォローアップ研修
- 9日 東京都相談支援実習チーム会議
- 14日 精神ピアサポートグループ
- 15日 第2回地域自立支援協議会
- 18日 街づくり人プロジェクトヒューマンラ
イブラリー
- 19日 日障連運営委員会※
- 20日 日野市地域福祉活動計画
日野市UDまちづくり推進協議会
- 21日 東京都相談支援従事者検討会
- 24日 相談支援サポートグループ
- 27日 福祉教育ハートフルプロジェクト

【2023年3月】

- 28日 夢が丘小福祉体験講座発表会
- 4日 社協福祉の集い講演会
- 8日 東京都相談支援従事者研修検討会
- 9日 福祉教育ハートフルプロジェクト
- 13日 当事者勉強会
- 15日 日野療護園苦情解決委員会
障害者差別解消周知研修 小規模店舗
意見交換
- 16日 東京都現任研教材作成会議
都障害者ピアサポート研修検討委員会
- 17日 JIL関東ブロック交流会
- 23日 障害者週間実行委員会
相談支援部会
精神ピアサポートグループ

※日障連→日野市障害者関係団体連絡協議会

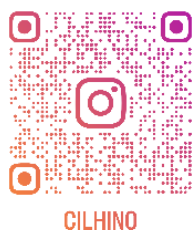
介助者を募集しています



介助に興味のある方・やってみたいという方がお近くにいま
 したら、紹介してください。
 同時に運転協力者も募集しています。運転歴が3年以上
 の方で運転が好きな方がいましたら、是非ご連絡下さい。

Instagram & Facebook はじめました

お気軽にのぞいてください！フォローも歓迎！



↑↑Instagramはこちら

QRコード読み込み、または“自立生活センター日野”で検索👍



↑↑フェイスブックはこちら

QRコード読み込み、または“自立生活センター日野”で検索👍

